

「赤木名小学校の赤木名八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数

1年生～6年生 計 113名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年6月～12月 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

平成30年12月6日(木) 本校体育館

(当初の予定では、大運動会で、地域の方々と一緒に踊る予定だったが、台風のため変更。)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

赤木名八月踊り(あかきなはちがつおどり)

(2) 由来

八月踊りは、奄美の各シマに伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については、はっきりとした記録はないが、唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ(神様)の祭りが集団踊りへ発展した、悪霊払いの火の神祭り、豊年感謝、祈念の祭り、先祖を偲ぶ祭りなど、様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

(3) 構成等

八月踊りは、基本的に「新節(アラセツィ)(旧暦最初のヒノエの日)」、「芝挿し(シバサシ)(新節から七日目のミズノエの日)」、「ドゥンガン(芝挿しの後のキノエネの日)」の3回に分けて踊られていたが、現在では、ほとんどの集落が1回で終わっている。

踊りの構成として男女別に列を作り、「ほこらしゃ」を踊りながら、門から家に入り、男女分かれて1つの輪を作る。その後、座り唄(イリウタ)を唄いながら踊りが始まり、赤木名地区では、最後に「浜千鳥(ハマチジュラ)」を踊るようになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々は、赤木名っ子タイム(総合的な学習)の時間や家庭教育学級で、子どもたちや保護者に指導してくださっている。

赤木名っ子タイムでは、年間8時間程度、学校に来ていただき「赤木名観音堂」「さんだまけまけ」「浜千鳥(ハマチジュラ)」の3つの踊りを学ばせていただいている。今年度初めて取り組んだ家庭教育学級でも、保存会の方が講師となり、伝承活動を行った。地域の方、保護者、子どもたち総勢100名近くが参加して、唄や踊りを習い、最後はみんなで輪になって踊り、盛り上がる事ができた。

また運動会では、担当集落の方々10数名が来校して、子どもたちと一緒に

踊りの輪の中心に入り、踊ってくださっている。地域の方々は円の中心で、唄のかけ合いや太鼓（ツィジン）でリードしてくださっている。子どもたちも赤木名っ子タイムでの学習を生かして、6年生が地域の方と一緒に太鼓（ツィジン）のリズムを打ち、他の学年も、声を出しながら元気に踊っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには、若い世代に伝えていくことが大切であると考え、工夫したことが二つある。

一つは、伝承活動を学校の教育活動にしっかりと位置付けることである。本校では、「ふるさと赤木名を愛し、誇りと自信をもつ子ども」を育てることを学校経営の柱の一つに掲げ、カリキュラムにも反映させている。実際、赤木名っ子タイム、そして運動会練習と、6月から12月まで継続した取組になるように教育課程に位置付けており、その結果、子どもたちの意識の高まりや、唄や踊りを覚えることにもつながっている。

もう一つは、保存会や地域の方々との連携である。日頃から管理職を中心に地域行事に参加したり、八月踊り保存会に入会し、学校の願いを伝えたり、保存会や地域の方の思いを承わったりして、つながりを強くしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

<保存会の方の意見>

- 八月踊りは、宝物です。その宝物をずっと大切にしていって欲しい。（子どもたちへのコメントより）
- 家庭教育学級は本当にいい取組だった。これからもして欲しい。今日参加した人の何名かでも保存会に来てくれたらありがたい。

<子どもたちの感想>

- 浜千鳥（ハマチジュラ）の歌は知っていたけど、振り付けが難しかった。またやりたいです。
- 「赤木名観音堂」をしっかりと覚え、「さんだまけまけ」も積極的に取り組めた。

<保護者の感想>

- 保存会に入って太鼓（ツィジン）をやってみたい。